

<おしゃべりを楽しもう！>



赤ちゃんは、2ヶ月を過ぎた頃から「あう」「おお」「うっくん」といった母音を使用した声を発するようになります。その後、「マンマンマン」「ばばばばば」など、特に意味を持たない喃語と呼ばれる言葉が出てきます。

それから、子どもたちは、どうやって言葉を覚え、発するようになるのでしょうか？子どもの側からすると、耳で聞いた言葉をオウム返しのようにしゃべる中で、ぴったりと合った言葉を発した時に、「〇〇って言えたの!?!」「すごいね」と、周りの大人から褒められます。まずは、身近な人の顔やものを認識し、この人は「パパ」、この人は「ママ」、食べるものは「マンマ」だと覚え、正確に使えるようになります。これらの言葉は、発音しやすいということもありますね。

<要求の指さし>のコラムで、指さしは心の中の言葉であると述べました。子どもは何かを見つけた時、「ほら、そこに何かいるよ」ということを誰かに伝えたくて、「ん、ん!」と指をさして訴えます。その時に、大人が、「可愛いワンワンだね」「これは、アリさんだよ」などと、子どもの発見に共感し、言葉を添えてあげると、子どもは少しずつ「これは、ワンワンっていうのか」「この小さくて黒いものはアリさんっていうんだな」と、一つずつ覚えていくのです。そして、指さしとともに、「ワンワン（がいるよ。みて!）」と、大人に思いを伝えるようになります。心の中に溜めていた言葉が、外に出てきたのです。

言葉は、人と人とがコミュニケーションを交わすための大切な道具です。ですから、言葉を獲得する過程でも、大人とのやりとりを通して言葉を覚え、発することの喜びを知っていくのです。周りの大人が、日常的に豊かに語りかけていると、子どもは、たくさんの言葉を覚え、使えるようになります。ただし、言葉を発するのには個人差がありますので、なかなかしゃべらないから「この子は言葉が遅い」と、一概に決めつけしないでください。大人や友だちと楽しい関わりをたくさん経験しながら、言葉を蓄えていっているお子さんもいますので、そういう子は、時期が来ると堰を切ったように言葉が溢れ出ます。

その後は、「バイバイ」「イヤ」「ちょうだい」など、気持ちや要求を表現する言葉を覚え、使えるようになります。大人が、適切な使い方をその都度知らせていくことで覚えていきます。子どもがまだしゃべれなくても、何かを欲しそうにしている時には、「ちょうだいって言うんだよ」物をもらったら、「ありがとう、だね」と、やりとりをする際に、言葉を添えてあげるようにしましょう。

言葉を使って、まわりの人や友だちとコミュニケーションをとることができた時、子どもはいちだんと自信をつけることでしょう。人と人との関わりがより楽しいものだと感じられるように、適切な言葉の使い方を知らせていきたいですね。

(文 ここすき!プロジェクト保育士)